

1. 計画名称

茅野市社会教育推進計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	おおむね順調	説明	(R4・総括評価共通) 各施設ともに新型コロナによる影響を大きく受けたが、イベントや事業については工夫を重ね、できる範囲で事業等実施することができた。「市民の学び、学びの活用、つながり」を支え、コロナ禍での生涯学習を推進していくことが求められている。
今後の重点化 施策番号	1	説明	公民館は市民にとって身近な生涯学習の拠点施設となっている。コロナの影響により、人と人との交流が制限され、縮小していた活動を元に戻すことが求められている。本館・地区館における事業実施とともに、地域における繋がりが途切れないよう支援していく。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	公民館の充実(1)	おおむね順調	(R4評価) コロナ禍でも、対策を講じながら活動していく方針で、講座に加え3年ぶりにホールでの発表等の事業を実施することができた。 (総括評価) コロナの影響により、事業に大きな打撃を受け、回復基調にはあるが、計画開始時の状況には戻っていない。	(R4評価・総括評価共通) 活動拠点としての建物及び設備の老朽化。 使用団体が高齢化し会員が減少している他、コロナの影響で、活動を自粛し、そのまま解散に至る団体も出ている。一度縮小してしまった公民館活動を、できる限りコロナ前の水準に戻していく必要がある。	施設関係は、予防修繕を基本として長寿命化を図る。 活動団体支援も含め公民館活動についてコロナ前の水準に戻すことを目指して、オンラインの活用等も含め、やり方などを改めて考えながら検討して実施していく。 他部署と共に組織体制の見直しを検討。
2	図書館の充実(1)	おおむね順調	(R4・総括評価共通) ウイズコロナでの利用が定着し、ボランティアグループの活動により実施してきた行事もほぼ実施することができた。ボランティアの学びや情報交換の場として読み聞かせ講座も実施し、活動を継続していくための支援も行った。また、市町村と県による協働電子図書館事業がスタートし広く登録を呼びかけた。	(R4・総括評価共通) 基本的な感染症対策を取りながら通常開館し、定例行事への参加者も徐々に増えてきている。利用者のニーズに応えられるよう職員のレベルアップが求められる。電子図書館についてはウイズコロナ時代の新しいサービスとしてより一層の周知が必要である。	市民アンケートの結果を踏まえ図書館協議会において今後の施設のあり方を検討し、公共施設再編計画における方向性を出すことができた。8月にスタートした電子図書館(デジとしょ信州)について、登録や使い方がわからないといった声があることから、今後講座等を開催し利用促進に努めたい。
3	八ヶ岳総合博物館の充実(1)	おおむね順調	(R4・総括評価共通) ・市民研究員養成講座第4期が始まり、人員が整理されたため、人数は減ったが、精力的に活動を始めた。調査研究の成果の一つとして、暖かいところで見られないシダを諏訪地方で発見することができた。 ・WITHコロナの考え方が定着し、徐々に客足が戻ってきた。プラネタリウムは人数を制限するものの、団体対応や出前講座に出かけることができた。 ・収蔵庫に収蔵スペースを作ったり、見やすい配置となったりするよう整理を進めた。 ・国立国語研究所等と共同主催で天文に関する企画展を開催した。年度末には学術協定を結び、来年度以降の調査・研究・発表につなげる準備が進んだ。	(R4・総括評価共通) ・新型コロナウイルス流行を契機に事業の取捨選択を行った。市民ニーズを的確にとらえ、今後は、より魅力のある事業を企画する必要がある。 ・文芸館の展示を、企画展などの開催により、元に戻せない状況にある。	・館内の整理を進め、収蔵スペースを確保していく。 ・デジタルアーカイブ構築への検討やデジタルを使った、配信などを考えていく。 ・岳麓文芸館の資料整理を行い、常設展に戻していく。
4	尖石縄文考古館の充実(1)	おおむね順調	(R4・総括評価共通) 夏休み期間や大型連休中の臨時開館を含み年間310日開館、無料開館1日、企画展1回、縄文教室7回及び作品焼き上げのための野焼き1回、縄文文化大学講座1回、縄文ゼミナール3回を開催、市民ガイド育成講座を11回を開催した。国宝「土偶」、長野県宝の観覧とボランティアの解説、各種イベントも好評を博した。	(R4・総括評価共通) 年間の入館者数と観覧料がコロナ前の水準に戻ったのは明るい材料で、この状況を維持できるように、各種イベントの内容吟味と実施、入館者への解説対応をできる限り対応するための市民ガイド育成を進めていく。	市民ガイドは28人が修了した。この間も中ッ原縄文公園等について7回の解説要望に対応、また縄文ゼミナールを兼ねた特別史跡指定70周年記念シンポジウムのオンライン配信は開催当日で263人が視聴した。こうした取組をさらに進めていく。
5	神長官守矢史料館の充実(1)	順調	(R4・総括評価共通) ・企画展を年3回開催した。 ・御柱祭の期間に合わせて企画展を開催し、入館者が増加した。 ・新型コロナウイルスに対する規制が撤廃されて人の動きが増加したため、入館者数も増加した。	(R4・総括評価共通) ・諏訪圏外からの来館者に比べ園内の来館者が少ない。 ・開館から30年以上が経過し、補修箇所が増えてきている。	・企画展については、従来通り行い、内容を、時節に応じたものを開催していく。

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

		主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	社会教育委員の会議	・入館料について、市外からの観光客は高めにしても良いのではないか。また市民は割引で調整すれば収入も増えるので、検討してほしい。 ・観光客の施設への足の確保をすれば、来場者が増えるので今後、検討してほしい。	・入館料は市全体で見直しをしている。その中で検討していきたい。 ・交通網に関しては、現状で理解していただきたい。
開催回数	1		
参加延べ人数	6		
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			
関連市民団体等名称			
開催回数			
参加延べ人数			

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」

3. 各施策等における評価内容と改革改善(5つ目以降)

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
6	地域づくり・ひとづくりの推進(1)	おおむね順調	(R4・総括評価共通) 新型コロナウイルス感染症の影響により、中止した事業もあるが、成人式や小泉山体験など感染対策を工夫し、実施できた。5年間のうち、約3年間は新型コロナウイルス感染症の影響により、事業が中止になったが、少しずつでも進めることができた。	(R4・総括評価共通) 新型コロナウイルス感染症は、地域づくり・ひとづくりに不可欠な集まって学習する機会を奪ってしまった。自然体験などオンラインでは開催が難しい事業もある。新型コロナウイルス感染症により、内容を工夫し、実施した事業もあるため、今までの進め方も含めて検討が必要。	コロナ下で工夫しながら進めてきた事業の良かったところを取り入れながら、今後の事業を進め、市民の学習機会を減らさないようにする。